

# 東北地方 1か月予報

(10月12日から11月11日までの天候見通し)

平成14年10月11日  
仙台管区気象台発表

## <予想される向こう1か月の天候>

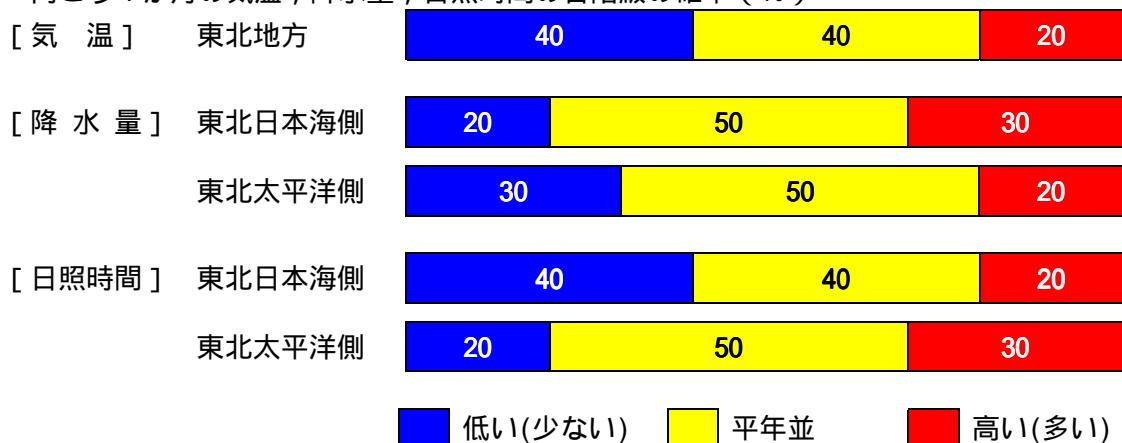
向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

天気はおおむね周期的に変わるでしょう。低気圧の通過後は寒気の影響で、東北日本海側はしぐれる所が多い見込みです。

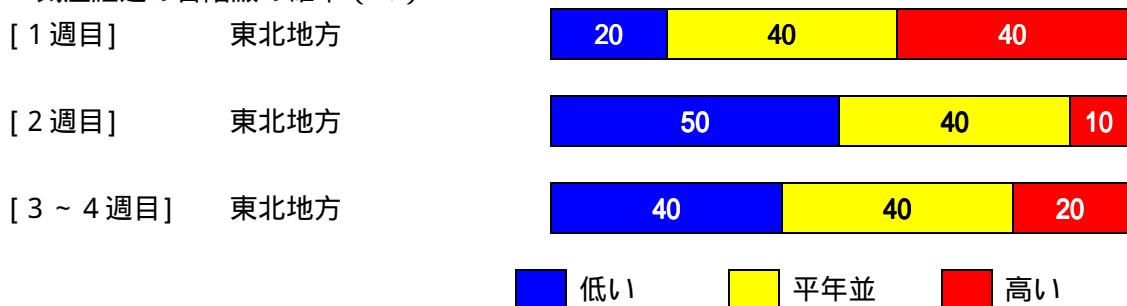
向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並、日照時間は東北日本海側は平年並か少なく、東北太平洋側は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か高い、2週目は低い、3~4週目は平年並か低い見込みです。

## <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



## <気温経過の各階級の確率(%)>



## <予報の対象期間>

1か月 : 10月12日(土)~11月11日(月)

1週目 : 10月12日(土)~10月18日(金)

2週目 : 10月19日(土)~10月25日(金)

3~4週目 : 10月26日(土)~11月 8日(金)

## <次回発表予定等>

1か月予報 : 毎週金曜日14時30分 次回は10月18日

3か月予報 : 10月21日(月)14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温( )	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温( )		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	11.7	126.8	150.4	13.9	12.5	10.8
新庄	10.0	171.7	93.8	12.5	10.9	8.9
若松	10.8	70.5	114.9	13.4	11.7	9.7
深浦	11.3	158.3	116.1	13.5	12.1	10.3
青森	10.4	118.5	135.9	12.7	11.3	9.3
むつ	10.1	112.6	148.3	12.4	11.0	9.1
八戸	10.5	73.8	161.0	12.9	11.4	9.5
秋田	11.4	167.8	129.7	13.7	12.3	10.4
盛岡	9.5	99.2	143.3	11.9	10.4	8.4
宮古	11.1	95.9	158.6	13.3	11.9	10.2
酒田	12.6	188.2	126.2	14.8	13.5	11.6
山形	10.9	74.0	127.2	13.4	11.9	9.8
仙台	12.7	83.9	155.8	15.0	13.6	11.7
石巻	12.1	89.8	163.0	14.4	12.9	11.1
福島	12.6	79.1	144.4	15.0	13.4	11.6
白河	11.2	87.0	152.6	13.4	11.9	10.2
小名浜	14.2	122.7	164.5	16.3	15.0	13.2

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差( )	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5~+0.4	84~110	95~106
東北日本海側	-0.5~+0.5	91~107	95~105
東北太平洋側	-0.5~+0.5	69~120	96~106

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.8~+0.5	-0.7~+0.6	-0.7~+0.7
東北日本海側	-0.8~+0.6	-0.7~+0.6	-0.7~+0.7
東北太平洋側	-0.7~+0.5	-0.6~+0.6	-0.7~+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

# 東北地方 1か月予報解説資料

平成14年10月11日 仙台管区気象台

## 1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(10月12日～11月11日)：

天気はおおむね周期的に変わるでしょう。低気圧の通過後は寒気の影響で、東北日本海側ではしぐれる所が多い見込みです。

平均気温は平年並か低いでしょう。

1週目(10月12日～10月18日)：

高気圧に覆われておおむね晴れますが、期間の中頃気圧の谷の影響で、東北北部を中心に雨の降る日があるでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

2週目(10月19日～10月25日)：

北からの寒気の影響を受けやすく、東北太平洋側は天気が周期的に変わりますが、東北日本海側ではしぐれる日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

3～4週目(10月26日～11月8日)：

天気はおおむね周期的に変わるでしょう。低気圧の通過後は寒気の影響で、東北日本海側ではしぐれる所が多い見込みです。

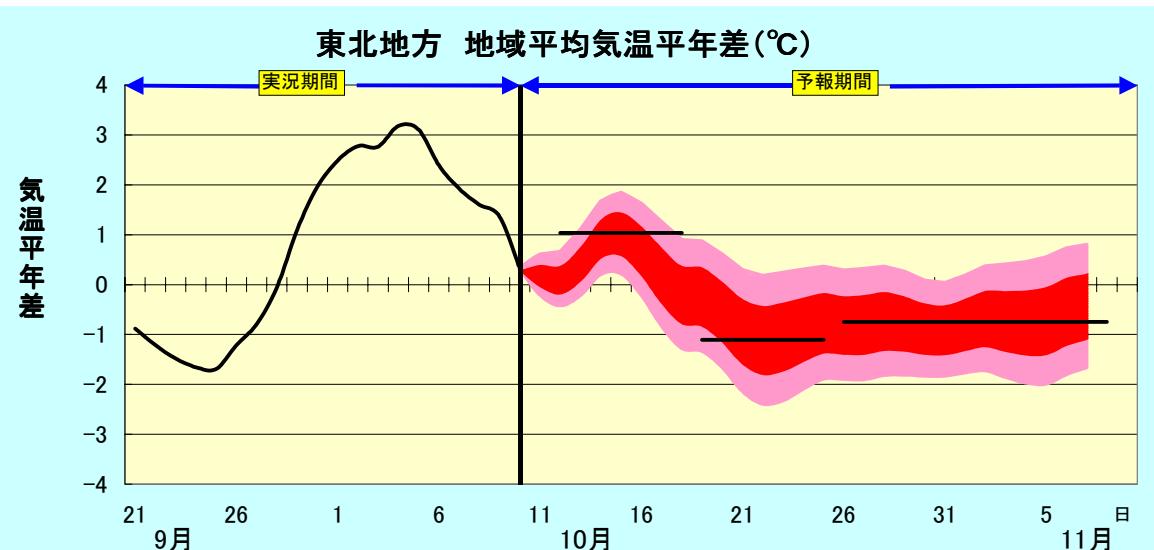
平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	12.5日	3.2日	3.4日	5.9日
東北太平洋側	16.8日	4.0日	4.2日	8.6日

## 2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「高い」、2週目は「低い」、3～4週目は「平年並」を予測している。予報はその他の資料から1週目を「平年並か高い」、3～4週目を「平年並か低い」に変更するほかは数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

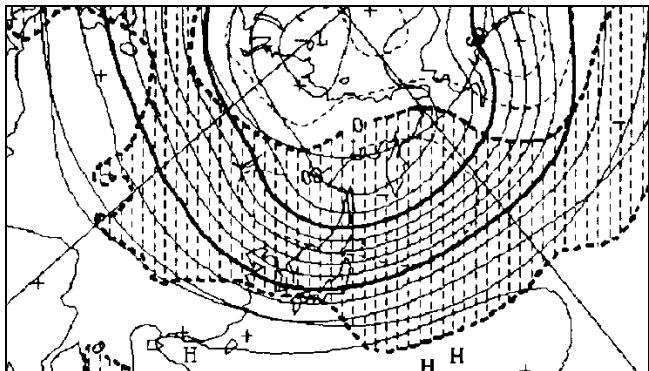


\* 実況期間(図の左側)の太い実線：東北地方地域平均気温平年差の実況値。(7日平均値)

\* 予報期間(図の右側)には7日平均気温の予測に対する信頼の程度が40%の幅(濃い赤の範囲)と信頼の程度が70%の幅(濃い赤と薄い赤の範囲)を表示

\* 水平な3本の実線：予報期間の1週目、2週目、3～4週目についての多数の平均。

### 3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



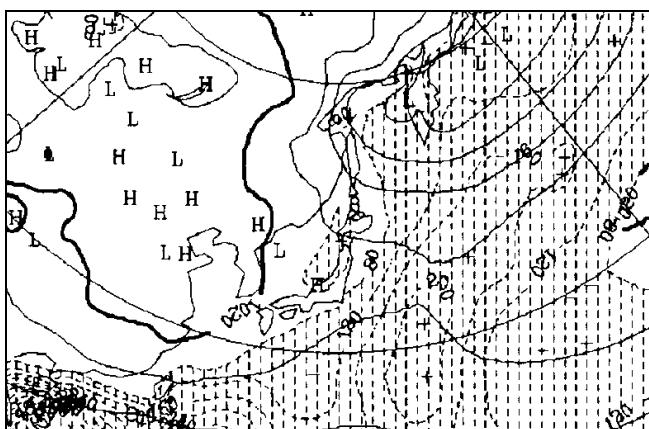
月平均の 500hPa 高度・偏差

等高度線 : 60m 每、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差

#### 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、極東の北緯 30 度から 60 度にかけては広く負偏差となり、東北地方は北からの寒気の影響を受けやすい見込み。

週別（図略）では、1 週目は日本付近は正偏差に覆われるが、2 週目以降は負偏差に転じる。負偏差が特に大きいのは 2 週目となる予想。



月平均の地上気圧と降水量

等圧線 : 4hPa 每、降水量 : 40mm 每、陰影部 : 80mm 以上

#### 地上気圧と降水量

月平均で見ると、カムチャツカ半島付近に低気圧、中国大陸に高気圧があって、北日本の日本海側に降水域が予想されている。

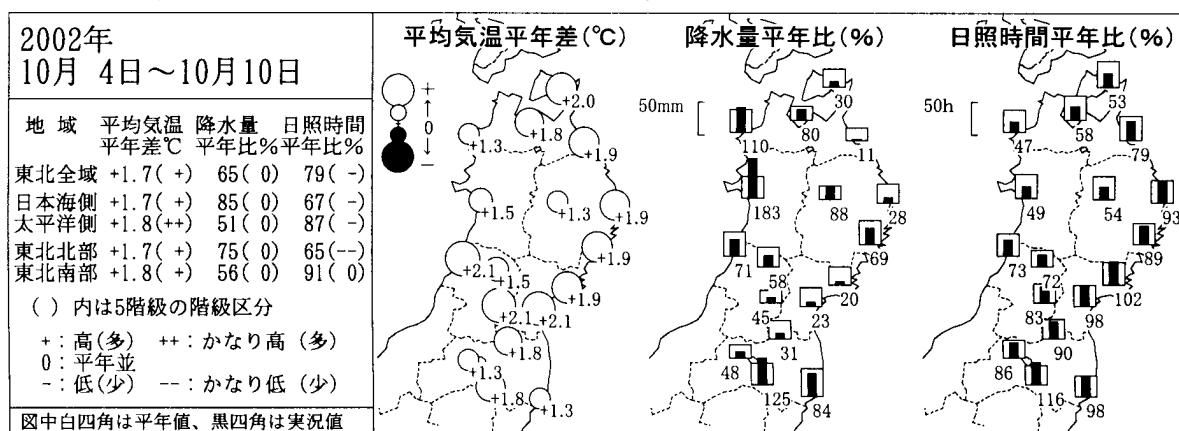
週別（図略）では、1 週目は、本州付近は高気圧に覆われ、東北地方にまとまった降水域は予想されていない。2 週目以降は、地上気圧、降水域とも月平均の分布に近くなる見込み。

### 4. 最近 1 週間（10月 4 日～10月 10 日）の天候の経過

この期間、東北南部は天気が周期的に変わり、6日から8日は低気圧や前線の影響で曇りや雨となったが、その他は晴れる日が多くた。東北北部は、低気圧や上空の寒気の影響を受けやすく、5日に晴れた他は、曇りや雨となった。

なお、11日に鳥海山の初冠雪を観測した。

平均気温は、東北日本海側で平年差+1.7 度高く、東北太平洋側で平年差+1.8度とかなり高かった。降水量は、東北地方で平年比65%と平年並だった。日照時間は、東北北部で平年比65%とかなり少なく、東北南部で平年比91%と平年並だった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）